

令和5年度 学校評価実施報告書

学校名（岡崎中学校）

教育目標	
自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高め、確かな学力・豊かな心・健やかな体を備えた生徒を育成する	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
	生徒が、学習したことの価値や意義を自ら確認できる授業を開催し、意欲的な学びを引き出すことを目標として組織的・継続的な授業改善に取り組んだ。年間を通して、各教科の授業の中で「多様なテキストを的確に読み取り考えをもつ」「他者と協働し、関連づけて考える」「学んだことを再構築して表現する」などの学習場面を設定し協働的な学びと個別最適な学びの両立を目指して学習活動をすすめてきた。全国学力調査や学習確認プログラムの結果も向上しており成果として現れているように感じる。次年度以降も更に取組を進めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	令和5年度は新型コロナの5類移行に伴い行動制限がなくなったこともあり、学校での生徒の活動の様子を目にする機会も大きく増えた。授業参観や学校祭を見学していく中で生徒たちが規律正しく学んでいて学校全体の雰囲気の良さを感じる。社会の中で学校に求められる役割が増加する中であるが、今後も地域と連携しながらより良い教育を推進していってほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和5年10月10日	学校運営協議会理事会
最終評価	令和6年2月26日	学校運営協議会理事会

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標	
「自ら学習する力・自ら考え表現する力を身につけさせる」	・すべての教育活動の基本は『授業』であるという認識を生徒・教職員が共に持つ。その上で、『主体的、対話的で深い学び』を重視した授業を開催し、生徒が輝き、お互いに信頼感のある授業の実現を目指す。また、家庭学習を定着・充実させるために、各授業は予習・復習を前提として行うことを共通認識し、家庭学習と授業のつながりを重視しながら、学力の向上に繋げる。

具体的な取組

- 生徒が、学習したことの価値や意義を自ら確認できる授業を展開し、意欲的な学びを引き出す。特に、「多様なテキストを的確に読み取り考えをもつ」「他者と協働し、関連づけて考える」「学んだことを再構築して表現する」などの学習場面が設定できるよう、組織的・継続的な授業改善に取り組む。
- 六校（岡崎中・近衛中・錦林小・第三錦林小・第四錦林小・北白川小）で作成した「構想図」を軸とした取組を実践し、教育課程の編成や指導形態を工夫・改善し、9年間一貫した体制を構築することで確かな学力の定着を図る。
- 自主的な家庭学習の定着、充実を図るため、一人一台端末も活用しながら予習や復習の意義と方法を指導するとともに、授業と連動させながら学習課題の内容と提示方法を工夫・改善する。

（取組結果を検証する）各種指標

- 全国学力調査・ジョイントプログラム・学習確認プログラムの結果
- 生徒及び保護者アンケートの結果
(生徒アンケート)
 - 家で自分で計画を立てて勉強している
 - 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。
 - 各教科などで学んだことを活かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っている。
(保護者アンケート)
 - 子どもは、授業の内容をよく理解し、興味・関心をもって取り組んでいる。
 - 個に応じた基礎・基本の学力の定着を目指した取組が行われている。

中間評価

各種指標結果

学習確認プログラム（1年生はジョイントプログラム）では回数を重ねるごとに全体の指標が向上している。

今年度の全国学調では全市より国語+3 数学-2 英語+19と特に英語科において大きな学力向上がなされてきている

前期アンケートの結果

- 全体で55%程度の生徒が肯定的な回答
- 全体で72%程度の生徒が肯定的な回答
- 全体で80%程度の生徒が肯定的な回答
- 全体として76%程度の保護者が肯定的な回答
- 全体として80%の保護者が肯定的な回答

自己評価

分析（成果と課題）

意欲的な学びを引き出すために主体的・対話的な深い学びをめざした授業づくり（改善）を意識して取り組んでいる。授業冒頭の「めあて」の提示、終了前時の「振り返り」時間の設定などを今後も全教科で継続して徹底していきたい。また、授業の中の課題に対して「ペアワーク」や「話し合い活動」の時間を意識的に設定して課題を解決する能力を身に付けさせる等 年度当初より学力向上の取組を実践しているが、学習確認プログラムや全国学調の結果からも成果と

	<p>して表れているように感じている</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>小規模校の為に、同一教科での人員が少なく教科会が開催できない教科も多いが、従来取り組んでいる年間2回の校内公開授業週間に加え教科指導を重点とした校内研修会の企画や校内授業研修会を通して他学年・他教科の教員が相互に授業を参観し互いに学びあい、他者からの違った目を刺激にして授業改善を進めている。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <p>生徒アンケートの結果（各教科の授業に対して）</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 授業での先生の指示や説明はわかりやすい ② 授業のはじめに目標（ねらい・めあて）が示されている ③ 授業の中で、話し合ったり考えを発表する活動がある ④ 自分は主体的に授業に参加している
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>6月開催の「学校運営協議会」の後に学校長と一緒に授業の様子を参観したが、どの学年の生徒も意欲的に学習していた。ICT活用・対話的な学習スタイルなど以前と教室の雰囲気も違うが、将来に向けて必要な確かな学力を身に付けられる授業を今後も期待したい。</p> <p>学校運営協議会：10月10日</p>

最終評価

	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <p>後期 生徒アンケートの結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 全学年・全教科とも90%以上の生徒が肯定的な回答。 ② 全学年・全教科ともほぼ100%の生徒が肯定的な回答。 ③ 全学年・全教科とも概ね90%～95%の生徒が肯定的な回答。 ④ 概ねすべての学年で85%以上の生徒が肯定的な回答
自己評価	<p>分析(成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>上記の数値に表れているように、生徒たちも対話的な深い学びを望んでおり、そのことが主体的に学ぶ姿勢につながっている。今年度は、これまで数年間コロナ禍で実施が困難であった校内の授業研修会も実施し、授業後の研究協議会では全教員が子どもにつけたい資質・能力を再度確認することができた。次年度以降も他校の優れた実践なども取り入れて更なる授業改善を進めていきたい。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>年度末反省で出された意見を踏まえて次年度は更に充実した校内研修を推進していきたい。また、管理職からの直接の指導を通して個々教員の力量を向上させることにも取り組んでいきたい。</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>個別最適な学びと協働的な学びの両立など、未来を担う子どもたちに必要な力をつけさせるために先生方にも一層の授業改善が求められている。生徒たちにとって「わかる授業」「自ら考え学ぶ授業」を進めるために今後も努力して欲しい。</p>

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

重点目標

生徒が共によりよく生きるために、お互いの生き方や価値観の違いを認め合うなど、生徒一人一人の良さを伸ばしつつ、自らを律することのできる生徒とその集団を育てる

具体的な取組

- 道徳的実践力を生徒に身につけさせるために、「道徳の時間」を充実させるとともに、他の様々な教育活動を通して、思いやりの心をもち、自らを律することのできる生徒とその集団を形成していく。
- 1人一台端末の環境を生かし、個々の思いや考えを可視化し即目的な共有を図ることにより、より多面的・多角的な「考え方、議論する道徳」を充実していく。
- 道徳科と各教科等との関連付けはもとより、新たな生き方探求教育（キャリア教育）や SDGs などの視点から、家庭・地域や各種団体等の協力を得ながら可能な範囲で体験学習等を取り入れた授業改善を進める。
- 望ましい人間関係の中で、生徒が集団の一員として協働する態度を育成するとともに、場と状況を考え、他者との関わりを大切にし、正しく判断し行動できる生徒を育成する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 道徳授業で生徒が記入したワークシート
- 生徒アンケートの結果
 - 友達と協力することは楽しい
 - 人が困っているときは、進んで助けている。
 - 人の役に立つ人間になりたいと思う。
 - 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる。

中間評価

各種指標結果

- 全体として 96% 程度の生徒が肯定的な回答
- 全体として 87% 程度の生徒が肯定的な回答
- 全体として 97% 程度の生徒が肯定的な回答
- 全体として 87% 程度の生徒が肯定的な回答

自己評価

分析（成果と課題）

日ごろの生徒たちの表情や様子から、生徒相互に生き方や価値観の違いを認め合うなど自らを律することのできる生徒に成長している手ごたえは感じているし、アンケートの数値にも表れていると思う。

分析を踏まえた取組の改善

道徳的実践力を生徒に身につけさせられるように、日常の教科学習、行事などすべての教育活動の中で自らを律することができる生徒集団を形成するために、道徳や生徒指導の校内研修を年度の後半も充実させたい

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

生徒アンケートの結果

- 私は、人が困っているときは、進んで助けている。

	② 道徳の授業は、自分の考え方や生活を見直す機会となっている。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 所謂、勉強ができる子ではなく他者に対して思いやりの気持ちを持つ生徒に育つように地域での行事や取組でも学校と協力していきたい。学校運営協議会：10月10日

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果 後期 生徒アンケートの結果 ① 全学年とも90%程度の生徒が肯定的な回答 ② 全学年とも90%近くの生徒が肯定的な回答
自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題 全教職員による校内体制を確立する中で道徳教育の充実に取り組んだ。次年度以降も家庭や地域社会との共通理解と連携を深めて、教育活動全体を通して道徳教育を推進していきたい。 分析を踏まえた取組の改善 授業で考え、議論した結果が生徒たちの資質向上につながるように、次年度以降も日常の教科学習、行事などすべての教育活動の中で自らを律することができる生徒集団を形成していくたい。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策 世界の中では戦争や紛争が絶えず、暗いニュースを耳にする機会が多い。社会構造が大きく変化して予測困難とされる時代の中で、自分の未来に不安を感じている子どもたちも多いのではないかと心配している。道徳の授業以外のあらゆる場面でも、子どもたちにとって豊かな心が育まれる教育をお願いしたい。

（3）「健やかな体」の育成に向けて

	重点目標 <u>命を大切にし、健やかな体を育てる健康教育を実践する。</u>
	具体的な取組 「いのちを守る」ことの大切さを基盤にして、以下の取組を行う。 ① 自らの健康のために食習慣や生活習慣の在り方を考え、食事・運動・休養・睡眠の調和のとれた生活習慣を身に付けさせる ② <u>1・2年生で「非行防止教室」、3年生で「薬物乱用防止教室」、全学年で「性教育指導」を系統立てて取り組む。</u> ③ 防災意識を高め、安全や防災教育の充実・発展を図る。特に、災害時に自らの命を守る自助の力、他の人の命を助ける共助の力を育成する。 ④ <u>京都市立中学校体力向上に向けた実践研究事業（京都市教育委員会研究指定）に取り組み、生徒自ら身体を動かすことの喜びや楽しさを覚え体力向上に努める。</u>
	（取組結果を検証する）各種指標 生徒アンケートの結果

- | |
|---------------------|
| ① 朝食を毎日食べている。 |
| ② 毎日同じくらいの時刻に寝ている。 |
| ③ 每日同じくらいの時刻に起きている。 |

中間評価

自己評価	各種指標結果
	① 全体として90%以上の生徒が肯定的な回答
	② 全体として80%以上の生徒が肯定的な回答
学校関係者評価	分析（成果と課題）
	昨年度同時期のアンケート結果よりも「朝食摂取率」は更に向上了している。生徒自身や保護者が健やかな心身の成長をめざしてバランスの取れた食事、規則的な生活（早寝・早起き）を意識して取り組んでいると感じる。
	分析を踏まえた取組の改善
	健康な身体づくり・けがの予防・バランスの取れた食事の大切さ、規則正しい生活（早寝・早起き）の実践など養護教諭を筆頭に健康教育を計画的に実践している
	（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標
	生徒アンケートの結果 ① 私は、朝食を毎日食べている。 ② 私は、毎日同じくらいの時刻に寝ている。 ③ 私は、毎日同じくらいの時刻に起きている。
学校関係者による意見・支援策	岡崎中校区は、地域としての教育力も高い。地域・家庭が学校としっかりと連携していきたい。 学校運営協議会：10月10日

最終評価

自己評価	（中間評価時に設定した）各種指標結果
	後期 生徒アンケートの結果
	① 全学年で86%の生徒が肯定的な回答 ② 全学年で75%の生徒が肯定的な回答 ③ 全学年とも87%の生徒が肯定的な回答
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	生徒アンケートの結果では①～③いずれの数値も昨年度とほぼ同じ程度の結果であった。生徒会の保健衛生委員会の活動や、自らの健康に対しての意識向上を目指した本校独自の「ヘルスウイーク」などの取組も継続していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	本校は、生徒の「給食」の喫食率が全市のなかでもかなり高く、食に対しての意識も高い。養護教諭を中心に取り組んでいる「健康教育」を次年度以降も継続して、生徒の命を大切にし、健やかな体を育てる健康教育実践を進めていきたい。

学校関係者による意見・支援策

しっかりととした学力や健やかな身体には、子どもたちの健康がその礎となる。家庭と連携しながら地域でも子どもたちの健やかな身体づくりに寄与していきたい。

(4) 学校独自の取組

重点目標

生徒自ら現在および将来における自己実現を図っていくための自己指導能力の育成を支援する

具体的な取組

令和3年度・4年度と京都市教育委員会より研究指定を受け「生徒指導の充実に向けた実践研究」に取り組んだ。その研究成果を発揮すべく「生徒指導の3機能チェックリスト」を有効活用しながら、「生徒の自己指導能力を育成する」取組を全ての教育活動に取り組む。全教職員が、日々の教育活動の中で、生徒が自己存在感を得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を意識的に設定し日々の教育活動を進める。

(取組結果を検証する) 各種指標

生徒アンケートの結果

- ① 自分には良いところがあると思う。
- ② 将来の夢や目標を持っている。
- ③ 学校に行くのはは楽しいと思う。
- ④ 自分でやると決めたことは、やり遂げるようしている。

中間評価

各種指標結果

- ① 全体として75%程度の生徒が肯定的な回答
- ② 全体として69%程度の生徒が肯定的な回答
- ③ 全体として84%程度の生徒が肯定的な回答
- ④ 全体として83%程度の生徒が肯定的な回答

分析 (成果と課題)
数年間継続して①～④の数値について考察しているが、年々数値が向上している。全教職員が「生徒指導の3機能」を意識した日々の授業や教育実践を継続している成果が少しづつ数値にも表れていると思う。

分析を踏まえた取組の改善

年度内に「生徒指導」についての校内研修会を数回実施して教職員の意識向上に努めている。
今後も実践を続けていきたい

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

生徒アンケートの結果

- ① 私は、自分には良いところがあると思う。
- ② 自分は生徒会活動や学級活動に積極的に取り組んでいる。
- ③ 私は、学校に行くのは楽しいと思う

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	授業参観や地域での生徒の様子を見ていても規範意識が高い生徒が多いと感じる。自分自身に自信を持ってのびのびと成長して欲しい。学校運営協議会：10月10日

最終評価

自己 評 価	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	後期 生徒アンケートの結果
	<p>① 全学年で78%の生徒が肯定的な回答</p> <p>② 全学年で82%の生徒が肯定的な回答</p> <p>③ 全学年とも84%の生徒が肯定的な回答</p>
分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題	年間を通して現在の岡崎中学校が生徒たちにとって安心・安全で居心地の良い空間であり、生徒たちがのびのびと落ち着いて学校生活を楽しめる環境でありたいと考えている。アンケート結果から、多くの生徒が学校に対して肯定的に感じていることがわかるが、これらの項目については満足度100%を目指していきたい。
	分析を踏まえた取組の改善
	あらゆる教育活動の中で、自己存在感の得られる場・共感的人間関係を構築できる場・生徒自身が自己決定できる場を教職員全員が意識して設定できるよう、「生徒指導の3機能」を基盤とした教育実践を継続していきたい。
学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	地域や学校での子どもたちの様子を見ていても穏やかで落ち着いた様子である。新型コロナの5類移行後は地域行事などに参加してくれる生徒も以前の状態に戻ってきている。地域で子どもと関わる機会が増えたので子どもを認める・ほめることを意識していきた。

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	働き方改革を推進するため、教職員の意識改革を図ると共に地域・保護者との意識の共有に努める
	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度より生徒完全下校を教職員の勤務時間終了時間に合わせて設定し、突発的な出来事以外での勤務時間終了後の生徒・保護者対応を軽減する 1人一台端末やデジタル教材を効果的に活用し、教材準備等の軽減を図る 出退勤システムを適切に運用し、教職員の勤務時間縮減と管理を徹底する。 教職員定期健康診断の悉皆受診や要精検者への受診指導を図る。
(取組結果を検証する) 各種指標	
	<ul style="list-style-type: none"> ストレスチェック受検率 時間外勤務時間の前年度との比較

中間評価

各種指標結果	
ストレスチェックについては今年度も昨年度と同じ100%の受検率を目指している。平時は遅くとも20時までに退勤、週に1度は全教職員が19時退勤完了など今年度は昨年度まで以上に意識改革が徹底できるよう管理職からの声かけを心がけている。	
自己評価	分析（成果と課題）
	小規模校ゆえに、一人一人の先生にかかる校務分掌・学年分掌が多いために主任級の教職員の時間外勤務がなかなか改善できていない
	分析を踏まえた取組の改善
4月から、年間を通して部活動の終了時間を17時に設定など時間外勤務縮減に取り組んでいる。次年度に向けて行事や会議の精選などを時間外勤務が少しでも軽減できるよう今後も努力を続けたい	
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	
時間外勤務時間の昨年度との比較	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	教員の人材不足などを耳にするし、教職員の多忙感が払拭しにくい現状があると思うが地域としても協力していきたい。学校運営協議会：10月10日

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
早朝からの学校への勤務の禁止や平日の退勤時間が以前よりかなり早くなるよう、今年度は昨年度まで以上に管理職からの強く声をかけており徐々に時間外勤務時間は減少している。しかしながらまだ取り組むことは多く、特に教職員の意識改革の必要性を感じる。	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	教職員が回答した「ストレスチェック」では、現在の仕事は多忙だが一方で働き甲斐があると感じている方が多い。「職場で相談しやすい雰囲気がある」と回答した教職員が多く、働くことに充実感を感じている方が圧倒的多数である。しかしながら日常業務の多忙感は脱却することは困難であり、勤務時間の縮減は達成すべき絶対的な課題である。
	分析を踏まえた取組の改善
今年度は「生徒完全下校を勤務時間終了時間に合わせる」を完全実施した。次年度は更に「7：30以前の勤務開始の禁止・電話対応は8：00～18：00まで」等の思い切った変更を予定している。変更に伴う教職員の意識改革に取り組みたい。	
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
	学校に期待されることが多い中で教職員の職務内容を削減し、働き方改革を推進することはとても難しいと思う。教職員が抱えている職務を地域で担えることがあれば協力していきたい。

(6) いじめの防止等についての取組に向けて

重点目標
他者へのいじめを行わないことはもとより、自分自身がいじめ防止等の取組の当事者となり、その解決に向けて主体的に行動できる生徒を育成する。
具体的な取組
「学校いじめの防止等基本方針」に同じ (取組結果を検証する) 各種指標

- ① 全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。
- ② 学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。
- ③ いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(生徒アンケート項目より)
- ④ 生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。
- ⑤ 保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している

中間評価

各種指標結果
① 教職員のアンケート結果、100%が肯定的な回答
② 年度当初及び全校集会の機会に全校生徒に向けて校長より紹介している
③ 全体として98%程度の生徒が肯定的な回答
④ 毎週、管理職やSCを含めた生徒指導の情報交換を行っている。見逃しの観察を継続していく。
⑤ 6月実施の学校運営協議会で、学校いじめぼうし等基本方針や日常の未然防止の取組や様子について説明・周知した
自己評価
分析(成果と課題)
小中合同の夏季研修会で「いじめ・不登校の未然防止」をテーマに校内研修会を行った。日々の教育活動において、生徒の居場所作り・絆づくりを意識した取組を継続することが未然防止に繋がることを全教職員で確認し、日々の生徒指導に対応している。
分析を踏まえた取組の改善
いじめアンケートに頼らず、日々の生徒の様子や保護者対応に心を配り、いじめの未然防止・早期対応を継続して行いたい。
(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
全教職員が学校いじめの防止等基本方針の内容を理解し、組織的対応に努めている。 ②学校のいじめ対策委員会のメンバーを生徒に紹介している。 ④ いじめは、どんなことがあってもいけないことだと思う。(生徒アンケート項目より) ⑤児童生徒・保護者の訴え(アンケート結果含む)や相談内容を共有している。 ⑤保護者や学校運営協議会等に、学校いじめの防止等基本方針や学校の取組を説明・周知している
学校関係者評価
学校関係者による意見・支援策
小さないじめも見逃しのないような丁寧な指導継続を期待したい。 学校運営協議会：10月10日

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	<p>① 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答</p> <p>② 全校規模の集会や毎学期の始業式で全校生徒に向けて校長より紹介している</p> <p>③ 全学年とも、ほぼ100%の生徒が肯定的な回答</p> <p>④ 教職員のアンケート結果は100%が肯定的な回答</p> <p>⑤ 保護者へのアンケート結果では、90%の保護者が「いじめや不登校に対して学校は対処している」と回答している</p>
学校関係者評価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>「いじめ」はいつでも、どこでも起こりうる という認識を教職員で常に認識して「情報の共有」「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を心がけている。保護者対象のアンケート結果には、保護者からの感謝の声「いつも丁寧に個々の生徒に対応していただき感謝している」等がたくさん寄せられており、学校の対応を肯定的にとらえていただいていることが可視化され、教職員の励みにもなっている。</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <p>生徒及び保護者へのアンケート結果では、学校の対応や取り組みについて肯定的に考えていたいっている。教職員全員の日々の教育活動の中で「いじめの未然防止」と「いじめ発生時の丁寧な初期対応」について慢心せずに次年度に向けても一人一人の生徒を徹底的に大切にして、心の通った生徒指導を続けていきたい。</p> <p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>丁寧な指導を継続して、「いじめ」を見逃さないようにしてほしい。</p>